

■教員対象研修会 開催報告■

表記につきまして、下記のとおり報告致します。

記

- 1.開催日時 平成 30 年 10 月 13 日(土)9:00～15:30
- 2.開催場所 (1)座学の部 TKP 札幌カンファレンスセンター(札幌市北区北 7 条西 2 丁目)
(2)体験の部 むらかみ牧場(恵庭市戸磯) ※希望者のみ
- 3.参加者 (1)札幌市内・近郊 小中学校教職員等 11 名
(2)酪農家(ファシリテーター他) 3 名
(3)山鼻南小学校サタデースクール 30 名 ※酪農体験のみ

4.実施概要

(1)座学の部

村上委員長の開会挨拶後、酪農教育ファーム紹介 DVD を上映した。



①「酪農教育ファームの意義と教育効果」講師：野上 泰宏

(帯広市つつじが丘小学校校長・日本酪農教育ファーム研究会)

自分自身が“総合的な学習の時間”ができてから 20 年ほど酪農教育ファームと関わってきたなかで、学校における効果について話したい。

学校に求められているのは、社会に開かれていることでそのためには地域との連携が必要となる。そこで地域教材として酪農教育ファームがあり、たんに命をいただいているということをお伝えされるのではなく、実際に牛乳の暖かさを手に感じるだけで、冷たいことが新鮮であるのかという認識について考えたり、また、職業として酪農を見たときに、牧場に関わる様々な

人々（獣医師・飼料会社・削蹄師・輸送会社・授精師等々）とのつながりがあることを知ったりなど学ぶべきことはたくさんあるが、何を学ばせるのかを明確にしないと、体験だけが残り学びがなくなる。

では、どのように学ばせるのか。現地に行くのが難しいのであれば、酪農家を外部教師として招いたり、本も映像もある。

酪農教育の良さは、総合的な学習の時間を始め、教科のねらいに合致していること、また学んだ知識を活用できることにある。

生き物を扱っている酪農家のまなざしは暖かく、生徒も牛に接すると表情が変わっていくのがわかる。

どのような天気でも日々同じ作業をしている酪農は、いつ行っても同じ体験ができる。

また、酪農教育ファームの認証を受けている牧場は、衛生面や安全面への配慮がしっかりなされているうえ、ファシリテーターは研修を受け、伝え方の勉強や学校教育への理解があるとといった話しをされた。



②「社会科における酪農教育実践」 講師：田山 修三

(北海道教育大学岩見沢校特任教授・日本酪農教育ファーム研究会)

教科書や副読本のない酪農教育はどのように行ったらいいのか？現在の授業数ではまとまった時間が取れない、(牧場へ行くためには3~4時間の時間が必要)出前授業はあるが交通費もあるしなかなか簡単ではない。であれば、先生が知識を持って自分で話してみるのもいいのではないか。認証牧場は、安全や衛生に配慮され、何といてもファシリテーターは話し方や子どもとの接し方について勉強しているし、酪農についての見識も高い、ただ札幌からは遠隔地にあるのでバス代もかかることが難点である。現地学習や修学旅行に取り入れることは可能ではないのだろうか。

それでは、どのように学習をつくるのか？

生徒をその気にさせるには、“入り”“つかみ”が大事。“~たい”(知りたい・調べたい

やりたい・・・)が生まれる授業にするために、こういう話しだったら興味を持つだろうな、というものを考えていただきたい。

そこで、酪農を通して何かに入っていくことができる。例えば、先日の地震の後スーパーに牛乳がなくなった。どうしてすぐ届かなかったのか。東京では腐ってもいけないのに、牛乳の味がおかしいとって事件になったのはなぜなのか？

毎日給食に出る牛乳や大好きなチーズやヨーグルト、アイスなど子どもの生活に結びついた話題だと興味を持ちやすい。そこから、流通、環境、エコ、仕事、地形と酪農、気候と酪農、輸入と輸出など様々な学びにつながっていく。

■参加者たちがKP法(紙プロジェクター)でキーワードとそこからの学びについて発表■

○おっぱい・・・子供たちも大好き、自分も飲んでた、牛の赤ちゃんのおっぱいをもらっている
動物によって数も違う

○よだれ・・・大事、消化を良くしてお腹の調子を整える

○うんち・・・みんなもする、畑の栄養、バイオガスプラントでエネルギー

○牛乳飲み比べ・・・学校の牛乳はどれ？パックを見比べる

○牛乳・・・どうして毎日出てくる？栄養、どうやって作られる？
流通・環境・量・・・算数

○牛の柄・・・一頭一頭違う 特色に目を向けると愛着がわく

○食事・・・何をどのくらい食べる？消化時間、消化器官

○牛乳パック・紙にしてハガキを作る、染色、絵手紙

○牛>人・・・人口よりも牛が多い町のこと、分布図

○牛の角・・・あるのか？ないのか？牛乳が提供されるまでに牛もいろんなことをされる

○牛のしっぽ・・・牛自身の衛生

○牛のイヤリング・・・安全管理・トレサビリティ

○牛乳はなぜ白い・・・何からできている？知ったら無駄にしたり残したりできない

○旅行的行事～酪農体験～・・・酪農体験はしたことがあり、生徒の表情ががらっと変わる

○道徳～いじめ・生命の尊重～・・・今の子どもたちは、いじめや SNS などのストレスでこころが弱っていると感じる

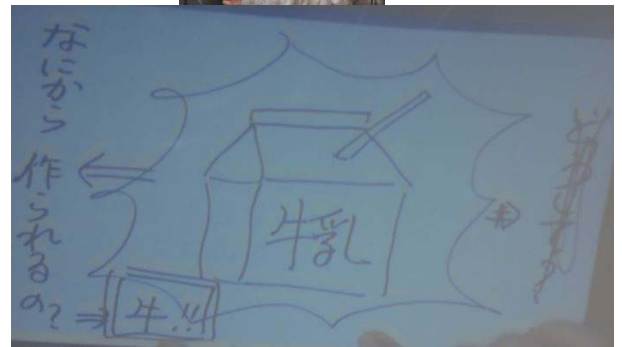
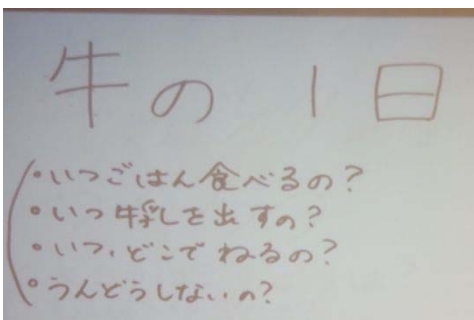
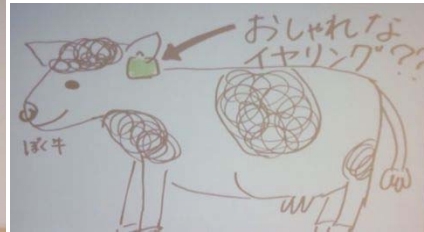
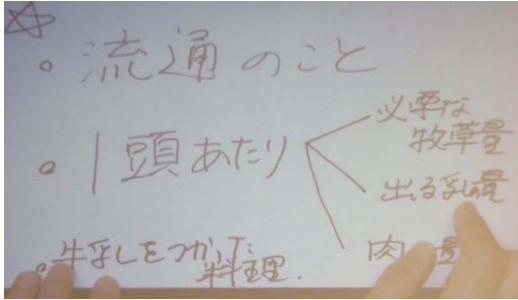
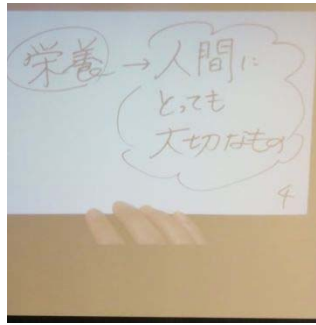
○中1 物理(光)・科学(水溶液)・生物(植物)

中2 生物(体のつくり・消化器官)

中3 生物(遺伝・生産者→消費者→分解者)・科学(イオン)

牛に関連しただけでたくさんの事が学べる

ということに気づいてほしい



最後に田山先生より、様々な立場の方々に参加していただくことで、色々な意見を聞くことができた。認証牧場として認められている安全安心への配慮やファシリテーターの勉強会などの意味があり、今日、色々出てきた学びのヒントがまた、酪農家(ファシリテーター)にとっても非常に参考となった。

今年度は、研修会の案内が地震などでタイミングが悪かったが、また次回も是非参加していただきたいと結んだ。

③酪農家の話

■フジタファーム(鹿追町) 藤田 多恵

牧場の仕事に関わってからまだ 5 年。元々小中学校で教職の仕事をしたこともあり、その後セラピストとして働いていました。酪農発祥の地である千葉県の出身ですが牛についてはほとんど知らなかった。

この仕事を始めたころは、赤ちゃん牛を引き離されてまで牛が働いていることを最初は受け入れられなかったが、生き物は好きだし、子どもと関わることは好きです。いざやってみると知らないことだらけだった。ただ、毎日給食に出る牛乳がどれだけ大変な思いをして作られているのかをすごく知ってほしいと思う。牛は、命をかけている。赤ちゃんができなくなったら最後の仕事へ行く。このことを先生やお母さんたちに伝えたいと思っていたところ酪農教育ファームという活動を知り、今年ファシリテーターを取得した。私の嫁いだ牧場は、まだこの活動に興味がないが、まずは自分ひとりでできる事から、少人数の受入から始めた。

以前、足が曲がったままの仔牛がいて、このままだと廃用になると思い、中 2 の息子の担任の先生に、その前にもし時間がとれるなら、子どもたちに哺乳体験とかをさせてみるのはどうでしょうか？と提案したところ、みんなが牧場に来てくれたことがあった。その後学校に戻り、経済動物として、この子はどうしていったらいいのか、というのをクラスで話し合う時間を持ってくれた。酪農家のことを考えたら、治る見込みがないのにお金をかけて治療するのがいいのか、それともすぐにさよならするのがいいのか。正解は出ないが、時間をかけてそういうことを考えるきっかけになったのは良かったと思う。

今日の授業のとっかかりの話はとても楽しく参考になりました。何の授業でもどんな授業でもどの学年でも使える題材が牧場にはあるし、牛は人と違うが、同じところもたくさんある。是非授業に取り入れていただけたら、牛たちもうれしいと思う。

セラピストをやっているのも、人間のために命をかけている牛をいやす存在でいたいし、先生やお母さんたちにもこころにゆとりがあると、子どもたちものびのび学習に取り込めると思っているのも、そういうことに貢献していける活動をしていきたいと考えている。



■大友牧場(芽室町) 大友 亜弥

農業高校時代に、「さくら」という牛と出会った。入学当初牛が怖かったが、中で一番小さかった「さくら」の世話をするようになったが、初めての分娩で死産、そしてその時「さくら」も足を傷め、結局廃用となった。当時はそのことがなかなか受け入れられず、今でもその気持ちが残っている。

経済動物とは何なのか？経済動物と人間はどう関わっていくべきなのか？もっと勉強したいと思い帯広畜産大へ進み、その後管内の牧場で研修後今の牧場に嫁いだ。

「さくら」に出会ってから13年、牛からたくさんのことを学んだ。従業員として働くなかで、助けられなかった命がたくさんあった。牛の死と向き合うたびに自分が強くなっていくような気がするが、今では「さくら」との出会いでいい意味で人生が変わったと思っている。

酪農や牛は十分すぎるくらいに教育的価値があると実感しているので、今度は自分が伝えていく番だと思っている。嫁いだ牧場は酪農教育ファーム活動には積極的ではないが、徐々に説得し、牧場の環境も整えながら、人に伝えられる牧場にしていきたい。

芽室町は圧倒的に畑作農家が多く、酪農家は50件しかない。まずは、地元の小中学生に伝えることから始めたいと考えている。1年にたった1時間しか時間がとれなくても、十分に意味があると思う。



■むらかみ牧場(恵庭) 村上 隆彦

恵庭で酪農家に生まれ、牧場を継ぎました。2人とは初対面だが、牛や酪農との関わりを通して持った葛藤や疑問の中、彼女たちのような人から生まれたのが酪農教育ファームとも言えます。そして正解はありません。今北海道の酪農家6千件弱の中で、この活動をしている酪農家は約60件。全道各地に色々な思いを持って活動し、またその思いが活動への力ともなっている。

今日の話の中で、体験料やバス代のことも課題となっていますが、活用できそうな事業もあります。北海道乳業協会の「牧場・乳業ふれあい体験事業」札幌市単独事業「さっぽろっこ農業体験事業」出前授業では、牛乳普及協会「酪育ミルク教室」など、各学校へ案内は出しているが担当の先生まで届かないのが実情のようです。是非活用して下さい。修学旅行で旅行会社

へ提案してみるのもいいと思う。ガイドブックも参考にしてください。

今日は、酪農体験へのヒントとたくさんもらいましたありがとうございました。

④酪農体験（むらかみ牧場）※希望者のみ

※当初、教員参加者が非常に少なかったため、田山先生がコーディネーターを務める

札幌市立山鼻南小学校サタデースクールの生徒他 30 名が参加することとなった。

小学校 1 年生から 6 年生まで、順番に搾乳体験を行い、子牛へのエサやり、バター作りを行った。手帖に熱心にメモをしたり、写真を撮ったりする生徒もいた。瞬く間に 1 時間半が経過し、ソフトクリームまで食べてから全員無事帰路についた。





⑤移動のバスの中では「牛乳が消えた日」の紙芝居も行った



平成 30 年度酪農教育ファーム北海道推進委員会主催 教員対象研修会アンケート ＝教員＝

■各講座・酪農体験の感想等■

○酪農教育ファームの意義と効果○

- ・この活動自体を初めて知り、子どもたちの体験後の様子の変化に注目してみたい
- ・地域にあるリソースをどう活用していくのか興味深かった
- ・農家の収穫体験とは異なり、天候に左右されないことがメリットだと思った。
- ・同じ命だが、子どもにとっては植物よりも動物の方が命として実感しやすいかもしれない
- ・様々なことが求められている学校教育の中で、地域との関わりを持ちながら取り組んでいくことで、酪農家にとってもモチベーションにつながる事がわかり今後も実践してみたい。
- ・地域と学校のつながりが酪農教育を発展させるキーワードかと思った。
- ・総合的な学習の時間 はカリキュラムが必要なので、どのように作っていくのかもっと知りたいと思った。
- ・酪農教育?というところからのスタートだったので、今日の研修に先立って、酪農教育ファームの大枠を話していただきよかった。
- ・食と“いのち”の中で、どうしても“命”というのは抽象的であり、製品としての牛乳と搾りたての牛乳の比較から「あたたかさ」に注目することで、“命”の具体化とつながると思った。授業の中で“見えないもの”をいかに“見える”ようにするかが大切だと思った。
- ・学びの要素がたくさんあるからこそ、何を学ばせたいかを明確にすることの大切さを感じた。

○社会科における酪農教育実践○

- ・「酪農」というキーワードから、命・職・食とたくさんの学習に広がるアイデアをたくさんいただいた。思ってた以上に普段の学習の中に取り入れやすいと酪農教育を身近に感じた。
- ・なかなかひとつの教科や時間で取り組むことは難しいが、活動のアイデアは色々あると感じた。
- ・時数の確保さえできれば、社会科に限らずどの教科にも結びつけていける。流通・生産・消費と社会科は切り口が広くてとりかかりやすい。
- ・時数という課題は中学校であればクリアできそうな気がするので、可能性を模索したい
- ・難しく考えず、少しずつ布石をうつことで子ども自身が興味を持っていけることがわかった

た。参考になった。

- ・情報・交流をすることで酪農教育の可能性に気づくことができた。
- ・酪農を取り入れられそうな可能性のある時間はたくさんあると思った。そのために日々アンテナをはっていたり教材研究をしたりしていかねばと思った。

○酪農家の話○

- ・牛に対する考え方や伝えたい思いなど心に残りました。
- ・子どもたちも教科書よりも直接お話を聞いた方が得るものが多いだろうと思った。
- ・出前授業に来ていただきたい
- ・牛たちが人間のために命をかけていることは、残酷な部分も多いので敬遠されがちだが、だからこそ学ぶべきだと思った。
- ・牛の一生に関わるお話で感動した。想像しただけでも苦しい思いだったので、現場の方は思いもさらに強いと思った。“いのち”の大切さ、牛の見方が変わりました。子どもにも伝えていきます。
- ・消費者には見えていない聞こえていない(聞こうとしない)ことばかりでした。子どもたちも知るべきだと痛感した。“命を大切にする”という命題とともに“生きていくためには命が必要”もわかっていないと本当の意味での“命”を知ることはできない。キレイごとだけではない経済動物の一生と環境、関わる人の気持ちなどそれらを知るだけで、子どもたちにとっては今後の人生の中で糧になるのでは、と思った。

○酪農体験○ ※参加者のみ

- ・初めて搾乳体験をして、牛の暖かさや感触に驚いた。子どもたちが夢中になることが身をもって納得した。
- ・バター作りとアイスは最後でよいですね。あまりにも楽しくておいしくて集中力が心配。
- ・事前に色々なお話を伺っていたので、牛を目の当たりにするとその体温や息遣いから“いのち”を肌で感じ、事前学習が生きてくると思った。
- ・実際に触る・見る・感じるといった活動の大切さを感じた。

■今後、授業で活用したいと思いますか？■

- ・知識も体験の全ても感動が大きかったので、子どもたちにも味わってほしい。
- ・学校の中の色々な場面にちりばめて、折に触れて指導できるようにしていきたい。
- ・百聞は一見に如かず、感動的な体験。子どもたちを連れて行きたい。
- ・「生」と「死」「いただきます」と「ごちそうさま」を伝えたい
- ・これからの教育に必要なことは、酪農体験に詰まっていると思った。
- ・身近なもののありがたさを感じるにはいいと思った。
- ・色々な可能性があり、それぞれの学年に合わせどんな取り組みが出来るか考えることが楽しくなりそう。
- ・酪農家さんのお話が心に響いた、道徳として伝えたい。

■その他ご意見ご感想■

- ・実際に搾乳しているところを見たり、牛舎の掃除をしたり、個人的に勉強してみたいです
素敵な機会をありがとうございました。
- ・貴重な体験をありがとうございました。
- ・参加してほんとうに良かったです。
- ・大変面白い研修会でした。
- ・次回は同僚にも声をかけたいと思います。

＝酪農家 他＝

○今回、一番印象に残ったことは？○

- ・先生たちの酪農教育のアイデア。驚いた素晴らしい
- ・牛というひとつの動物から様々な授業につながる事がわかった
- ・牧場体験の見学

○研修会全体を通して気になったことや参考になったこと○

- ・全体構成がとても良かった
- ・酪農家のお話はとても説得力があった
- ・全てが勉強になった。

○教育ファーム活動で理解してほしいこと・伝えたいこと○

- ・酪農家は牛を大切に育てているということ。牛乳はどのように出来ているか、それを牛乳や乳製品を食べたときに思い出してもらえるようになってほしい。
- ・牛は何でも教えてくれる。コミュニケーション必須。酪農は複合サービス業です。ホテルでありレストランであり学校・美容・医療・・・。

○教育ファーム活動で気を付けていること、先生への要望等○

- ・今回のアイデアをもとに実践をしてもらいたい。
- ・学生の年齢や性格、ペースに合わせて、体験の内容や時間配分を変えている
- ・まず先生達に体験してほしい。牛と人は同じ。

○今後の研修会への要望やその他ご意見ご感想○

- ・今回のような内容を継続してほしい、内容をさらにアップして。
- ・来年も是非開催を
- ・先生方と交流できて楽しかった。